

## 会 議 録

- 1 会議名  
平成25年度 第1回阿賀野市スポーツ推進審議会
- 2 開催日時  
平成26年3月12日（水） 午前10時00分から午前11時30分まで
- 3 開催場所  
笹神支所4階 大会議室
- 4 出席者（傍聴者を除く。）の氏名（敬称略）
  - ・委員長：菊地 修市
  - ・副委員長：中島 善一
  - ・委員：遠藤 誠、遠藤 志野、佐藤 哲男、波多野 清、渡邊 笑子  
（9人中7人出席）
  - ・事務局：見原課長、齋藤係長、上原係長、佐藤主任、（計4人）
- 5 議題（公開・非公開の別）
  - (1) 報告案件（公開）
    - ① 平成25年度スポーツ推進事業実施状況について
  - (2) 協議案件（公開）
    - ① 平成26年度スポーツ推進事業計画について
    - ② 阿賀野市のスポーツ関係団体への補助について（体協・スポ少）
    - ③ 阿賀野市体育協会補助金交付要綱、阿賀野市スポーツ少年団補助金交付要綱について
  - (3) その他（公開）
- 6 傍聴者の数  
0人
- 7 発言の内容
  - (1) ① 平成25年度スポーツ推進事業実施状況について  
菊地委員長：平成25年度スポーツ推進事業実施状況についてということで事務局から説明をお願いします。  
上原係長：それでは、説明させていただきます。

(別紙、資料のとおり)

以上、報告をさせていただきます。

菊地委員長：平成25年度スポーツ推進事業実施状況について報告がありましたが、これについてご質問等がございましたらお願いします。

遠藤(志)委員：第11回4人制ソフトボール大会で、トリムが4チーム、フリーが3チームの参加となっていますが、トリムとは何ですか。

上原係長：トリムは参加者の性別や年齢により制限を設けており、フリーはその制限が無いもので参加者の構成が違っております。

遠藤(志)委員：フリーとトリムは一緒には試合をしないのですか。

上原係長：若い方が多かったりするとレベルも違ってくるため、一緒にはしておりません。

菊地委員長：他に何かございますか。

遠藤(誠)委員：研修事業のところで体力測定というのがありまして、対象がスポーツ推進委員と行政となっていますがこれは昨年度もやりましたか。

上原係長：昨年は実施しておりません。

遠藤(誠)委員：今後、市民向けに開催するとかの意図があるのでしょうか。

上原係長：体力測定ですが、今までは市役所の職員からセレクトして実施しており、一般住民の方を対象にはしておりませんでした。昨年度は実施できなかったのですが、今年はスポーツ推進委員を対象に実施してみて、今後はスポ&レク大会等で、市民の方を対象とした体力測定を実施出来ればと考えていますが確定ではありません。他の市町村では住民を対象とした体力測定を実施しているところもありますので、前向きに考えてみたいと思います。

遠藤(誠)委員：今年はお試しでやったということですが、結果的にはどうですか。

上原係長：菊地会長も参加しておりましたが、スポーツ推進委員という割には悲惨な結果でした。

遠藤(誠)委員：笹神体育館でやったようですが、器具はどんなものを使用しましたか。

上原係長：握力は握力計を使用しましたし、笹神体育館にあるものを使用しましたが、そんな大がかりなものは使用しません。

遠藤(誠)委員：私の友人も、実年齢よりも肉体年齢が若いという結果が出ると喜んでおりますので、手軽に実施できるのであれば好評になるかもしれませんね。

菊地委員長：市民の皆さんと共有できるように実施したいが、体力測定だけをやってもなかなか参加者は集まらないでしょうから、どういう方法だと参加しやすいかをスポーツ推進委員で検討していきたいと思います。

遠藤(誠)委員：中止になった行事が目立つが、私も色々な事をしているが、人集めが

一番難しい。新潟日報に出したり広報に載せていただいても、ほとんど電話はなく、結局は人づてでやるしかないのが実情です。なので、体力測定を単独で実施してもおそらく集まらないでしょうから、何かをうまく利用して人を集める事をしないと思うようには集まらないと思います。

菊地委員長：いま、遠藤委員が仰られたとおりで、一番の課題は参加する人数が年々減っているということです。ナイターソフトひとつとっても毎年のように参加チームが減っている。それに比例して他の事業も参加人数が減っています。スポーツ推進委員も会議を開く中で、どういうふうにしたら参加者が集まるのか、喜んでもらえるのかというのが議題にはなりますが、これといったいい案が出てこないもので、この場をお借りして、ご意見なりお知恵を拝借出来ればありがたいと思います。最後にフリートークのような形でお話しいただければと思います。

それでは先に進めさせていただきます。(2) 協議事項 ①平成26年度スポーツ推進事業計画について、②阿賀野市のスポーツ関係団体への補助について、③阿賀野市体育協会補助金交付要綱、阿賀野市スポーツ少年団補助金交付要綱についてを一括して事務局より説明していただいた後、皆様よりご意見をいただきたいと思います。

上原係長：それでは、説明させていただきます。

(別紙、資料のとおり)

以上、提案をさせていただきます。

菊地委員長：事務局より「平成26年度スポーツ推進事業計画」から「補助金交付要綱」まで一気に説明をいただきました。これからは平成25年度の事業計画の反省点も踏まえ、「平成26年度の事業計画」「体育協会」「スポーツ少年団」「競技スポーツの推進」「人材育成」「施設管理」まで、あらゆる角度から、お聞きしたい点・いろいろな提案等、ご意見をお聞かせいただきたいと思います。

渡邊委員：先ほどいただいた、「阿賀野市学校施設使用条例」の新旧対照表とありますが、これはどういうことでしょうか。

上原係長：前山小学校が今月末で閉校になるので、学校開放施設から省くというものです。

菊地委員長：委員の皆様には各種スポーツ団体の責任者の方がいらっしゃいますが、今、体育協会・スポーツ少年団の活動内容・人員の動きはどうなっていますか。

波多野委員：体育協会は競技スポーツの部類になると思ういますが、目標がはっきりしており、そこに同意する人達が研鑽する場としているところが、市

民を対象としたのとは違うと思います。例えば市民を対象としたナイターソフトは地域の結束力を高めるとい地域性が強いものです。

中止になった行事もあるが、これはいけるよなというものもあったはずで、そこを攻めていく事が大事で、駄目だったものは思い切ってチェンジする方が良いのでは。研修に行って新しい事を始めるほうが前向きな考え方だと思います。

菊地委員長：今、体育協会の加盟団体はいくつですか。

波多野委員：体育協会は13団体程だと思います。スポ少は40団体を超えていると思います。

菊地委員長：今、スポ少に子供たちは入ってきますか。

佐藤委員：安田に限っていえば、学校の子供の数も減っているので減っています。

14団あるが、団によってばらつきがあります。安田は合併後連絡協議会を作ったが、どうしても子供数は減っています。友達が友達を呼んでくるのが人員確保には有効です。最終的には親の協力が必要です。

渡邊委員：親の送迎が無ければ参加できない実情があります。

佐藤委員：今は全部親の送迎なので、家庭の負担は大きいですね。

菊地委員長：体育協会の人数の増減はありませんか。

波多野委員：全部は把握していないが、バドミントンであればそんなに減ってはいません。あちこちで活動しています。

菊地委員長：阿賀野市の一番人気はバドミントンですか。

波多野委員：空手・サッカー・野球・バスケ・柔道等は一生懸命にやっています。

子供が大好きな人達の集まりなので、教え子の中には大人になって自分の子供を連れてくる人もいます。

菊地委員長：指導者の人材確保はどうなっていますか。一生懸命やっているという事は指導者がしっかりしているという事だが、この先々も繋がっていくのでしょうか。

佐藤委員：柔道、剣道、空手等専門的な技術が必要なものに関して、特に安田の柔道に関しては、子供の数より指導者の数が多い事もあります。

菊地委員長：中島さんが関わっている剣道に関してはどうですか。

中島委員：私は直接教えてはいなかったのですが、自分の子供が剣道をやっていますが、現在人気あまりないのか子供たちは減っているようですが、指導者は市内に大勢いるようです。

学校の授業で以前は冬になるとスキー授業があったと思うんですが、最近は県から補助金が出ているということで、市内で二つの学校が取り組んでいるんですか。

上原係長：今年は 赤坂・山手・分田・前山で実施しました。今年から分田が手

をあげたので来年も実施されると思います。

中島委員：そういう制度があっても、自分のところには指導者がいないので諦めているような地域もあると思います。しかし、スキーの指導が出来る人は市内に大勢いるでしょうし、それが生涯スポーツに絶対に繋がると思います。県外に行くと新潟県人はスキーが出来ると思われています。小学校時代に体験させることが良い経験になると思うので、市としても積極的に進めてもらいたいと思います。

菊地委員長：学校の名前があがりましたが、県の補助金の取り組みですか。

上原係長：補助金が終わっても続けている安田地区の学校もあります。学校から指導が出来る職員に直接依頼がきます。今年も初めての子供たちを教えました。1日いると子供たちはリフトに乗って緩斜面を滑ってこられるようになり、喜んでいましたので良い体験だと思います。

見原課長：分田小学校が補助金を貰って、今年初めて実施しました。

菊地委員長：補助金はどれくらい出るんですか。

上原係長：バス代程度だと思います。

菊地委員長：本来であれば行政が積極的に動いて、各学校でひと冬に1回くらいはスキーに行けるよう取り組んでほしい。

中島委員：先ほど人数が集まらないという話がありましたが、この3月まで堀越地区の区長をやっていましたが、市役所から病院関係・防災関係等の話をしてもらいました。そうすると地域の人が集まってきます。体力測定をスポーツ特区として、地区に出向いて実施すれば、人数の確保もできると思います。職員やスポーツ推進委員がやってみるのも大事ですが、外に出向いて事業を展開するのも方法だと思います。

見原課長：今配布したのは毎年全国で実施している小学校5年生と、中学校2年生の体力測定の結果です。新潟県は全国でも5本の指に入ります。阿賀野市の場合、小学校5年男子は全てにおいて全国平均を上回っています。しかし、問題なのは1週間の運動時間が1時間未満というのが一番多くなっている事です。スポーツをする子供としない子供で2極化となっています。中学2年生の女子では1週間の運動時間が、ゼロから1時間というが多くなっているのをどうするかが課題です。小学生低学年は全国平均を下回っていますが、小学生高学年になるとあがってきています。これが阿賀野市の状況です。

中島委員：ここ10年位になるが、新聞のスポーツ欄に阿賀野市の記事が載ることが少ない印象を受けが、何か原因があるのか。

佐藤委員：スポーツ少年団で基礎を作るが、中学校へ入ると教える先生がいないため継続出来ない。中学校でも教える先生がいれば伸びていくのでそこ

に原因があるのではないか。学校のスポーツが盛んになると非行も収まり、学校の活性化になるのではないか。例えば笹神中にバドミントンの先生がいれば、阿賀野市全体で指導するというようなになれば4校それぞれにいらなくてもよい。小・中と一番大事な時に連携すれば、高校に入っても継続するだろ。

中島委員：以前教育長と話す機会があったが、学校はあくまでも勉強をするところだという話をされた事があり、そういう考え方なら仕方がないとも思うが、佐藤委員の考え方は大賛成です。スポーツが盛んな学校に行くと学校全体に活気がありますよね。

菊地委員長：そういう意味では、水原中学校は心機一転大いに期待したいところです。そこを後押しするのは大人の力、行政の力が必要だと思います。

佐藤委員：子供が頑張っている時には大人も応援するが、弱くなったり、活動が低下すると大人も見なくなるが、本来であれば逆で低下したときに大人が一生懸命に応援してやるのが大事だと思います。スポ少も同じで、子供たちが一生懸命やっているときには親も見に来るが、弱くなると顔も出さなくなります。

菊地委員長：そうなると広範囲な人材の育成になるのでしょうかね。

見原課長：来年度から各学校に地域との連絡の担当が設けられますので、その先生を通じて我々が出来る事、学校からお願いする事等のアンテナを広げて調査していきたいと思っています。例えば水原中学校の卓球は市民が指導に行っておりますので、そういった動きを活発にしていくことも考えております。

菊地委員長：水原中学校に図書館を併設したという裏付けは、広範囲な情報公開・意見交換の拠点にしようというコンセプトがあった訳なので、それに沿った体制を作っていかなければと思います。私も設計段階から関わってきたが、とにかくオープンにし、そこに集うようにしていかないと駄目で、学校だけのものだという考えになると、水原中学校を含め阿賀野市から新聞に載るような活躍は期待できないと思います。

渡邊委員：私は総合型に関っていますが、体力測定にしても何にしても人集めなんですよね。スポーツ大会でも何でも、お互い協力して出来ないものかと思っています。

上原係長：これからは市の事業を総合型に委託するようになっていきたいと考えています。

渡邊委員：運動が嫌いな子も大勢いますので、そういった子をいかに取り込むかが大事なことだと思います。

菊地委員長：運動が好きな子は自分一人でもする訳で、体を動かさない子をいかに

するかが大切です。

渡邊委員：運動している親の子供は運動していますね。していない親の子はしませんね。

菊地委員長：スポーツフェスティバルは大勢人が集まってきます。小さい子がくれば親もついてきて毎年のように人が増えています。

佐藤委員：スポーツフェスティバルで体力測定のコーナーでも作って、全部は無理でも2・3種目でもやったらどうですか。

菊地委員長：スポーツばかりだと子供たちが飽きてしまうので、紙飛行機を飛ばしたり、縄跳びをしたりしています。

渡邊委員：総合型でうどん作りや餃子作りをしたが、そんなのと一緒にスポーツを組み合わせる取り組みも必要だと思います。

菊地委員長：単発の事業ではなく、組み合わせてやってみるとかですね。

波多野委員：人集めという事ですが、体育指導員の時代に中条では行政直轄で、集落にふたりずつ推進委員をおいたんですよ。当時笹神でも推奨したが、予算の関係なのか実現しませんでした。そうするとその委員は集落の中で働きかけるので、少なくとも参加者のアップに繋がっていましたので、そういった方法も考えられます。

菊地委員長：スポーツ推進委員は最近若い人が増えてきている事が救いかなと思っています。これからは若い人の発想が不可欠で、会議の中では外に研修に行ってみようという話が出ています。阿賀野市の中だけで人集めとかで悶々としていても仕方がないので、いろんなところに視察に行くことを期待しています。

上原係長：スポーツ推進委員は規則では40名定員ですが現在35名です。来年度から新しい任期となりますが、7名が退任し5名の応募がありました。いずれも男性で、20代～40代の方の応募があり、若返りつつあるのが現状です。

菊地委員長：施設関係でお聞きしたい事はありますか。総合計画の中でも新しい体育館を建設するとかの話題がありました。

齋藤係長：国の耐震基準を満たすために、阿賀野市のリノベーション事業で、水原公民館と水原体育館を更新する事が決定されました。3月議会で耐震補強設計の予算を盛り込みましたので、来年度は耐震診断設計、平成27年度に耐震工事の発注という事になるかと思います。他の体育施設も含めると市内に4つの体育館がありますが、それぞれ30年・40年経っています。今ほどの話の中にもありましたが、子供の数も減り、人口も減っていく中で、このまま体育館を4つ持っていていいものかという事について課の中で意見をまとめました。今あるものだから延命措置

が出来るものであればそのまま使っていくが、耐震診断の結果、修繕するより立て直した方が良いという施設については、取り壊しも含めて今後の課題という事で考えております。

渡邊委員：京ヶ瀬はあれだけ年数が経っていますので、耐震不可能でしょうか。

齋藤係長：京ヶ瀬体育館は現在でも雨漏りしています。全体的な使用状況、学校の体育館も含めての稼働率を考え、維持したほうが良いのかを判断するが、前山小学校の体育館が使用できますので、京ヶ瀬は早い時期に閉じることになるのではないかという状況です。

遠藤（志）委員：私は中高年の運動指導をしています。体力測定の結果が今一つだったという話でしたが、男性の運動が進んでいないというのが事実です。参加者が少なかったのですが、2年前4人の男性サークルをに立ち上げました。4人だとサークルとしても活動できない人数なんですね。最低10人集まらないと予算的にも無理なところを無理やり4人で始めました。そこにサークルが存在しなければ増えようがない、人数が少ないからとやめてしまうと、進まないのので敢えて4人でスタートしました。そうしたら今8人に増えました。広報でも宣伝したし、チラシも配りましたが、入ってきた方は知らなかったとおっしゃいます。先ほどスポ少で友達が友達を呼んでくるという話がありましたが、やはり人集めは口コミが一番強そうな感じがします。入ってきた方はまだ一人も辞めていないので、繋がりが大事だと思います。今後も男性サークルを広げていくつもりですが、サークルというと女性の方が多く、50人規模のサークルでも男性は1人だったりします。全国的に見てもそういう傾向にあるらしいのですが、そうすると男性がいづらくなってしまうという事が市内でもありましたが、女性の方には「御主人が家の中で倒れたら、来られないんですよ。御主人にも運動してもらってください。」と無理強いしないようにお話しています。

菊地委員長：ちなみに、男性サークルの平均年齢は何歳くらいですか。

遠藤（志）委員：平均は出していませんが、若い人でも60代、一番年輩の方は79歳になるかたもいらっしゃいます。バリバリ運動というのではなく、ストレッチ・有酸素運動・筋トレをやっています。男性は筋トレが好きな方が多いので、無理のない範囲でやっていますが、筋トレの時間になると目を輝かせて頑張っている様子なので、得意な部分を伸ばしていきたいと思っています。公民館の3階でやっていますが、ウォーキングが苦手だった方が階段も昇ってきます。胡坐をかけなかった方も股関節の可動域が広がり、出来るようになり喜んでいただいています。

中島委員：阿賀野市だけではありませんが、公共施設のトイレのほとんどが和式



です。高齢化社会になるし洋式を増やしていったほうがいいと思います。熊本県では公共施設や道の駅のトイレの洋式化を1・2年で完了する予算をつけたそうです。阿賀野市も健康を目標にするならその辺も取り組んだらどうですか。今年、地域で社会福祉協議会の補助金10万を狙ったんですが抽選で駄目でした。阿賀野市全体で予算が20万しかないんですよね。

菊地委員長：これから先々、洋式トイレがひとつくらいなければね。その辺行政の立場からどうでしょうか。

見原課長：今年、敬老会を4地区で開催しましたが、トイレ事が問題になっていました。

齋藤係長：安田公民館にひとつ、水原公民館は1階と2階にひとつずつあります。

佐藤委員：つけるなら今の時代、暖房便座とウォシュレット付きですね。

齋藤係長：市の施設のウォシュレット化はまだ少ないですね。笹神支所では昨年1カ所だけ付きました。

菊地委員長：トイレひとつとっても施設関係では大事なことだと思いますので、よろしく願いたします。

その他について事務局から願いたします。

上原係長：5月24日・25日、安田橋運動公園で国土交通省の水防訓練が実施されるため、現在工事をしております。第2球場が訓練会場になるため、6月一杯くらいは使用できないと思われま。以上ご報告いたします。

菊地委員長：長時間にわたり活発なご意見をお聞かせいただきましたが、この席だけの話ではなくて、行政の方からは上の方にあげていただいて少しでも反映できるようにしていただきたいと思います。私たち委員も色々な立場を持っているので、横の繋がり、人の輪を広げる立場でもあってほしいと思います。それが次に繋がり、阿賀野市にとっては良い方向づけとなり、最終的には「阿賀野市、すごいですね。」という情報が新聞やテレビに出るように頑張っていければと思っておりますので、よろしく願いたします。

本日は、長時間にわたりありがとうございました。

## 8 問い合わせ先

生涯学習課市民スポーツ係 TEL：0250-62-5322（内線312）

E-mail：[syogaigakusyu@city.agano.niigata.jp](mailto:syogaigakusyu@city.agano.niigata.jp)